

経営と健康

戦国武将の鉱山開発

講談師 一龍齋貞花



トランプ大統領は元実業家、例外なく高関税を課し、日本に対し防衛費を増やせ武器を購入しろという一方、日本を守る義務はないという。化石燃料を減らせと言われている時に、「掘って掘りまくれ」と。米国は世界一の石油産出国、ただし自国で産出するより輸入した方が安いという。鉄鉱石、金、鉛も産出する。

戦いには金がかかる。鉱山を活用した武将が勝利を収めている。その一方勝者が相手の鉱山を手に入れている。

「武田信玄のかくし金山」

信玄を支えた黒川金山をはじめいくつもの金山から産出する甲州金によって財政基盤を支え軍事力を強化、信玄の娘が金山奉行となつて人夫を使い、慰労のため女郎小屋まで作り里との往来

を禁じたかくし金山。20以上の金山銅山があり、これらの利益によって、相手に金を与え、戦いを回避して勝利を得ていた。川中島進出も金銅を掘りつくし資産不足から、上杉謙信を攻めて越後の港から佐渡の金山を手に入れんとした。但し相川鉱山が脚光を浴びるのは謙信没後24年、謙信は金山活用は今一つであったといえよう。

佐渡の西三川砂金山、本間氏の領国であったが上杉が領土を奪い、大量の金銀を産出、將軍足利義輝や夫人に銀千両贈り関東管領となった。景勝もこの銀を秀吉に献上し、秀吉が天下を取るや朝鮮出兵の資金源に使われた。

「織田信長の金銀、硝石」

信長に天下を取らせたのも生野銀山（兵庫）を占領して鉱山開発を促進。

スペイン、ポルトガルの船が訪れるようになり、火薬の原料である硝石の輸入港堺の商人と手を結び、鉄砲、硝石、鉛を輸入。鉄砲の活用によって長篠合戦勝利が有名である。安土城から信長鑄造と思われる金の大判、小判が発掘され、岐阜城の瓦に金が使われ、岐阜に金の信長像があるのも、金を重用した信長の威厳の象徴としてであろう。

金600枚を献上、このほかにも足利將軍にふんだんに砂金を贈つて陸奥守守護職の地位を得ている。政宗が豊かな金銀の鉱山を有していたことが判る。東北地方は豊かな砂金を産出、奥州藤原氏が栄華を誇つた黄金文化がその筆頭。

秀吉は天下を取るや、全国の金山、銀山総て豊臣の所有とし、各大名に管理させ毎年莫大な金銀を上納させている。なんにもしないで金銀を吸い上げている。

「徳川家康の鉱山開発」

日本最大の石見銀山いわみは小笠原、尼子、毛利が争奪戦を繰り広げ、豊臣秀吉がこの石見銀山を手中に収めるや、毛利に本領を安堵させ五大老の筆頭として厚遇し、石見銀山を管理させ献上させて天下人の安泰を図った。

伊達政宗も豊臣への運上金として黄

ポルトガルは、銀獲得のため鉄砲と交換したといわれる。

石見銀山生産に功のあった大久保長安を佐渡金山奉行に任命、長安は伝統的な手工業で生産させ、純度99・5%という金を生産、その純度は世界No.1だったといわれますから日本の技術は素晴らしいですね。さらにその後生産高1位という相川金銀山の完全開発によつて、17世紀前半世界の金の生産高の約2割を日本が占め、その半分がこの佐渡金山であったといえますから、つまり世界の1割を佐渡金山が占めていたわけで、この金が徳川260年の長期政権の元になったわけ。おまけに参勤交代で江戸と国元の二重生活で多額の出費を強いられるわけです。藩も財政やり繰りに大変でした。

後北条の伊豆金山が新技術を導入し土肥千軒といわれるほど発展。

このほかにも蒲生氏郷の軽井沢銀山、常盤の佐竹の久慈八溝金山、旧水戸、那珂郡、安中など506ヶ所の金山があり各武將が所有していたというが、いずれも徳川へ献上を強いられたことでしょう。

徳川時代が終り、明治新政府の時代になるや機械化が推し進められ引き続き多くの金や銀が産出されたが、遂に

は掘りつくし1907年閉山。

現在は世界文化遺産に登録されている。

いつの時代も時の為政者は、力の保持のため資源を我が物にしたのである。

「銅山の開発」

銅山の開発は、江戸時代足尾銅山の銅は、江戸城、日光東照宮、上野寛永寺、増上寺の銅瓦に使用されたりしている。足尾銅山は400年の歴史を誇り「日本一の鉱都」と呼ばれ大いに栄えたが、その後鉱毒問題で衆議院議員田中正造が公害を訴えたのはご存知の通り。この足尾銅山は1610年（慶長15年）に開発され、徳川は佐渡、石見、足尾の三大鉱山を手中に収めたのだから一番の経済通であったわけです。寛永通宝や、輸出品にも使用され江戸から明治の日本の発展を支え、現在も重要な鉱物であるが、公害問題によつて銅は肩身の狭い一面もあります。

弘法大師空海上人は、江戸時代より770年も前お寺を建てるのに必要な銅の権利を有していたといわれ、また地方の土豪でありながら楠木正成が南朝の忠臣と大働き出来たのは水銀の権利を有していたから、軍備をととのえることが出来たのです。

「渋沢栄一と硝石」

硝石は信長のところで火薬の原料として紹介したが、渋沢栄一が若き日、一橋家の家臣となり家来が少ないところから歩兵募集で備中を訪れた際、古い家の縁の下から硝石を見出し、軍制の様式化を急ぐ一橋家にとって必需品であり商品価値も高いと4カ所に製造所を開設。蚕の糞や山野草を養蚕家屋の床下に4～5年かけて醸成した土から製造。硝石の産地は加賀の五箇山、天領白川、南部、米沢、庄内、忍、徳島、岡山、松山の各藩。錫すずは高岡、兵庫県養父市、鹿児島など。

以前本誌の特集に、日本とロシアの“密な”エネルギー事情が紹介された。ロシアがウクライナに侵攻してからアメリカ、イギリス、カナダが液化天然ガス、石炭、原油、石油製品の輸入禁止を打ち出したと書かれていた。

それがトランプ大統領となるや「パリ協定からの離脱」とか、自国の化石燃料の増産を打ち出した。

日本は珍しくアメリカに追従することなく多くはないもののロシアの豊富な化石燃料に依存し、石油、天然ガスの開発に参画している。

豆炭は魚の乾燥に、練炭は冬は2個、夏は1個で風呂を沸かすことにも使われている。勿論わずかだが。第二次世界大戦中は石油だけでなく鉄鉱石も入手困難となり群馬鉄山から鉄鉱石を採掘した。

「日本は金銀資産世界一」

日本は、金銀の資産は世界一だとか。エッ本当？ なんだか信じられません。有効に活用されているのでしょうか。

トランプ大統領は、アメリカファーストと、レアアース、レアメタルを最重要品としており、ウクライナに戦争中止の仲立ちを利用して、ウクライナの豊富なレアアース獲得を狙っているのではないのでしょうか。

レアメタルの使用されているスマホは宝の山と云われ、使用しなくなったスマホ回収が一時叫ばれたが、最近ほとんど聞かなくなつた。都市鉱山資産を積極的に回収し、再利用をもっと推進するべきではないのでしょうか。

参考文献 日本史辞典、ウィキペディア

貞花の企業講演より